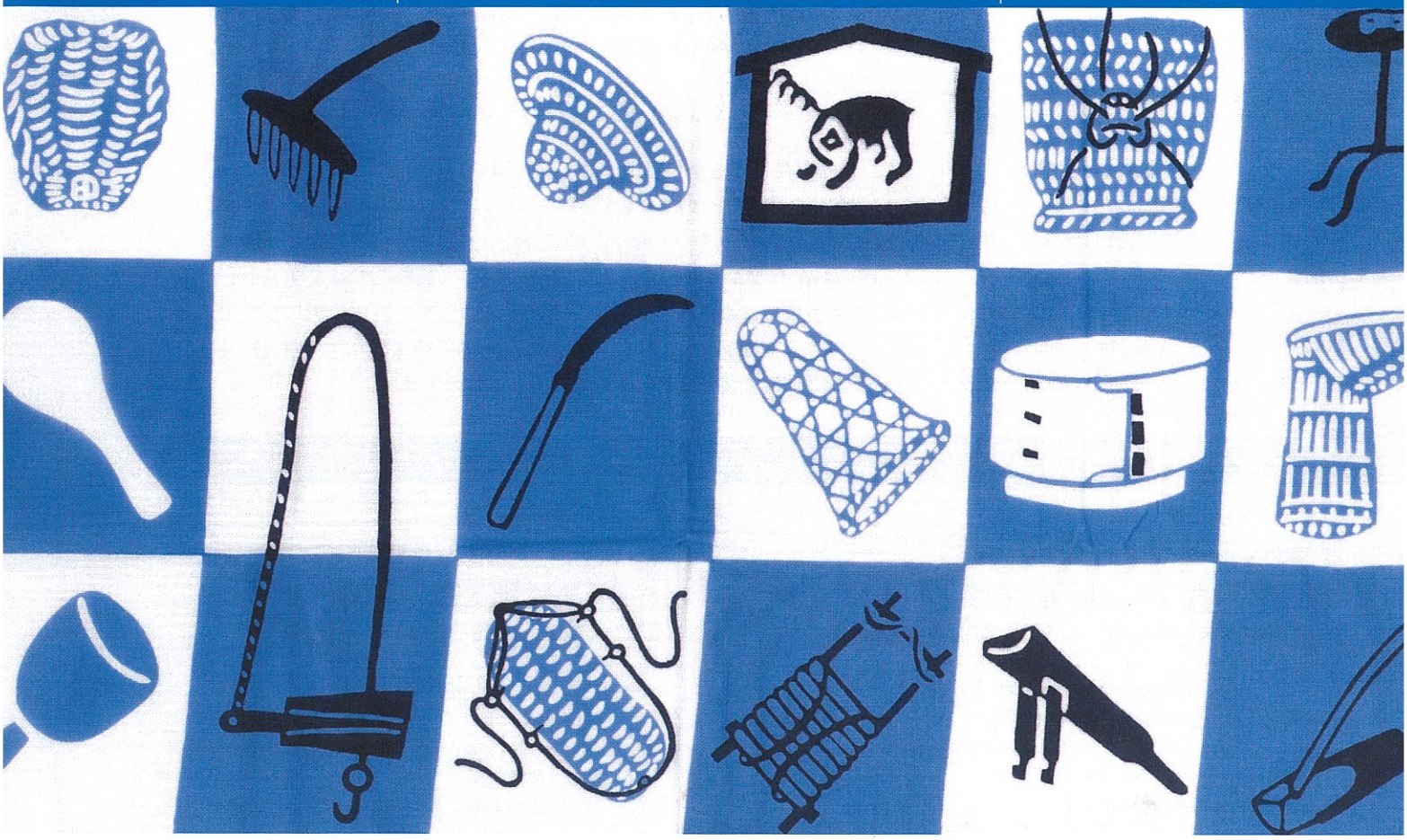
第２回　国際常民文化研究機構国際シンポジウム



“モノ”語り

―民具・物質文化からみる人類文化―

Things Talk:Human Culture from the Perspective of *Mingu* and Material Culture

日　時：2010.12/11(土)－12/12(日)　10：00－18：00

会　場：神奈川大学 横浜キャンパス 16号館　セレストホール

公開研究会　12月11日（土）　10：00―18：00

「民具の文化資源化 ―“モノ”研究の新たな挑戦―」

参加自由
申込不要

Session Ⅰ.「民具名称の諸問題」

「検索タグとしての標準名 ―農具の歴史を踏まえて―」　河野 通明
「民具名称のなりたち ―奥会津只見の事例から―」　佐々木 長生
「比較文化研究のための民具名称 ―ラオス北部と南九州の現場から―」　川野 和昭

Session Ⅱ.「民具からみる東アジアの比較文化史」

「中国文化形成の基層性と多様性」　槇林 啓介
「沖縄と福建における亀甲墓の比較研究」　小熊 誠
「現代民具に『消費者の生産』を読む」　朽木 量

Session Ⅲ.「フネとカラダ ―フネの構造と漕法―」

「身体活動の延長上にある北方船の技術 ―アムール川のムウとオモロチカー」　赤羽 正春
「手櫂（パドル）と民俗 ―トカラから八重山まで―」　板井 英伸
「艪・櫂の操作と絵画表現」　昆 政明

国際シンポジウム　12月12日（日）　10：00―18：00

「“モノ”と“ヒト”の人類文化史」

参加自由
申込不要

Session Ⅰ. 人と道具

「道具と身体技法」　フランソワ・シゴー
「道具の人間化・脱人間化、人体の道具化」　川田 順造

Session Ⅱ. 人と“モノ”

「中国歴史文化の中の伝統手工芸」　徐 芸乙
「『モノ』と人間：黄河流域における花饅頭の民俗文化」　周 星

Session Ⅲ. 人と生活

「モノから日本の近代生活を探る ―階層・ライフスタイル―」　櫻井 準也
「イヌイトとアリュートの『近代化』 ―皮舟と犬ぞりを事例にして―」
スチュアート ヘンリ

お問合せ／国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所
TEL: 045-481-5661(代)　FAX: 045-413-4151　http:// icfcs.kanagawa-u.ac.jp/

主催：国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所　協力：南山大学人類学研究所・武蔵野美術大学造形研究センター・福島県只見町教育委員会
後援：日本学術会議／日本文化人類学会　日本民俗学会　日本民具学会　地方史研究協議会　日本考古学協会　道具学会　日本人類学会　日本生活学会

Textura Culturae

第２回　国際常民文化研究機構国際シンポジウム

“モノ”語り―民具・物質文化からみる人類文化―

「モノ」は物理的だけではなく、霊的存在も日本語では示します。今回のシンポジウムでは、「民具マンスリー」をはじめとする日本常民文化研究所の長年の実績、文部科学省 21 世紀 COE プログラムのプロジェクト、更に非文字資料研究センターで取り組んできたマルチ言語版生活絵引の翻訳の作業を踏まえ、「モノ」と人間のかかわりから、新たな人類文化研究の可能性を探ります。中心的課題として、いずれの社会でも大多数を占める庶民が日常的に用いる「民具」名称の国際標準化を検討し、学術資料化を志向します。次に、「モノ」に託され、表された人々の意識、技術について論じ、国際常民文化研究における民具、物質文化研究の意義と方向性を考える場とします。

12月11日（土）

趣旨説明　佐野 賢治　神奈川大学日本常民文化研究所

公開研究会　10：00―18：00

「民具の文化資源化 ―“モノ”研究の新たな挑戦―」

Session Ⅰ.「民具名称の諸問題」10：30―12：30

「検索タグとしての標準名 ―農具の歴史を踏まえて―」
河野 通明　神奈川大学日本常民文化研究所

「民具名称のなりたち ―奥会津只見の事例から―」　佐々木 長生　福島県立博物館

「比較文化研究のための民具名称 ―ラオス北部と南九州の現場から―」
川野 和昭　鹿児島県歴史資料センター黎明館

司会・進行　神野 善治　武蔵野美術大学・機構グループリーダー
コメンテーター　八重樫 純樹　静岡大学

Session Ⅱ.「民具からみる東アジアの比較文化史」13：30―15：30

「中国文化形成の基層性と多様性」　槙林 啓介　総合地球環境学研究所

「沖縄と福建における亀甲墓の比較研究」　小熊 誠　神奈川大学日本常民文化研究所

「現代民具に『消費者の生産』を読む」　朽木 量　千葉商科大学

司会・進行　志賀 市子　茨城キリスト教大学
芹沢 知広　奈良大学
コメンテーター　太田 心平　国立民族学博物館
何 彬　首都大学東京
角南 聡一郎　元興寺文化財研究所・機構グループリーダー

Session Ⅲ.「フネとカラダ ―フネの構造と漕法―」15：45―17：45

「身体活動の延長上にある北方船の技術 ―アムール川のムウとオモロチカ―」
赤羽 正春　民俗学者

「手櫂（パドル）と民俗 ―トカラから八重山まで―」　板井 英伸　沖縄大学

「艪・櫂の操作と絵画表現」　昆 政明　青森県立郷土館

司会・進行　後藤 明　南山大学・機構グループリーダー
コメンテーター　門田 修　（有）海工房
洲澤 育範　伝統シーカヤック造船所　イサナ・カヤック

総括　小川 直之　國學院大學・折口博士記念古代研究所

12月12日（日）

趣旨説明　佐野 賢治　神奈川大学日本常民文化研究所

国際シンポジウム　10：00―18：00

「“モノ”と“ヒト”の人類文化史」

Session Ⅰ. 人と道具　10：30―12：00

「道具と身体技法」　フランソワ・シゴー　人類学者

「道具の人間化・脱人間化、人体の道具化」　川田 順造　神奈川大学

進行　神野 善治　武蔵野美術大学・機構グループリーダー
佐野 賢治　神奈川大学日本常民文化研究所

Session Ⅱ. 人と“モノ”　13：00―14：30

「中国歴史文化の中の伝統手工芸」　徐 芸乙　中国・南京大学

「『モノ』と人間：黄河流域における花饅頭の民俗文化」　周 星　愛知大学

進行　角南 聡一郎　元興寺文化財研究所・機構グループリーダー
小熊 誠　神奈川大学日本常民文化研究所

Session Ⅲ. 人と生活　14：45―16：15

「モノから日本の近代生活を探る ―階層・ライフスタイル―」
櫻井 準也　尚美学園大学

「イヌイトとアリュートの『近代化』 ―皮舟と犬ぞりを事例にして―」
スチュアート ヘンリ　放送大学

進行　後藤 明　南山大学・機構グループリーダー
平井 誠　神奈川大学日本常民文化研究所

全体討論　16：30―17：50

進行　朝岡 康二　日本民具学会
近藤 雅樹　国立民族学博物館

参加自由
申込不要

《問い合わせ先》
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所
Tel:045-481-5661（代）　Fax:045-413-4151
http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/

交通のご案内

●東急東横線白楽駅下車徒歩13分
●横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用（東神奈川駅西口経由 約15分）
①番乗り場36系統「菅田町」行または「緑車庫」行「神奈川大学入口」下車
①番乗り場82系統「八反橋」行または「神大寺入口」行「神奈川大学入口」下車
●横浜市営地下鉄片倉町駅から横浜市営バスを利用（約6分）
②番乗り場36・82系統「東神奈川駅」または「横浜駅西口」行「神奈川大学入口」下車
※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。